風土記の丘の花だより270

今、そしてこれから見られる植物（2025年4月26日）

山のカスミザクラも散りはて、いよいよ風や日差しに初夏を感じる季節になりました。剪定作業をしっかりしてくださったおかげで、今年のフジは格別でした。冬に船屋の南斜面の草刈りもしてくださったので、ウバユリの新芽がたくさん出てきています。夏が楽しみです。

ヒトツバタゴの花が咲きました。「なんじゃもんじゃの木」と言ったほうが通りがいいでしょうか？これといって「わ～すごいなぁ」というよう花ではありませんが、名前が名前だけに、話題性は十分にありますね。これはキンモクセイやヒイラギなどと同じモクセイ科の木ですが、花の様子はずいぶん違いますね。万葉植物園の西の入り口から入ると、左側のシナレンギョウ越しにこの花を見ることができます。まだまだ小さな木です。成長が楽しみです。

ふつうフジと呼んでいるこのフジはノダフジです。でもこのフジの花をよく見ると、中央少し上に何かへんてこな花ではないようなものがある事にお気づきでしょうか。これはフジツボミフクレフシという名前の「虫こぶ」です。小さな虫がフジのつぼみに卵を産むと、その周辺が膨らんで、虫こぶができます。幼虫はその中で成長し、成虫は穴を開けて出てきます。花だよりではなく、虫だよりになってしまいました。

この黄色い花はタンポポでしょうか？それにしたら、花も、葉も全体に弱々しく見えます。じつはタンポポではなくイワニガナというキク科の植物です。別名をジシバリといって、地面を縛り付けるように生え広がることから付いた名前です。ニガナという植物も風土記の丘では普通に見る事ができますが、ヒョロヒョロしたニガナは、このイワニガナと雰囲気は全く違います。あと、すこし大型のその名もオオジシバリという植物も見ることができます。いろいろ見比べてみてください。

ご存じオオバコです。こんなごくありふれた草ですが、今、余り見かけなくなったことにお気づきでしょうか。今では風土記の丘でもご近所の公園や校庭など、どこでもツボミオオバコという外来植物の勢いに負けて、元々のオオバコは隅っこに押しやられている感じです。昔は（昔の話をするのは、歳をとった証拠でしょうが）道路もあまり舗装されていませんでしたから、車の轍（わだち）に沿って、オオバコがずーっと生えていました。それは、オオバコの種子にはネバネバがついていて、人の履き物や、車のタイヤなどにくっついて運ばれるからです。それで道に沿って一列に生えていたのです。そんな昔の田園風景を思い出された方も少なくないのでは？これから出勤日ごとに咲いている花がふえて、花だよりにどれを載せようか迷います。嬉しい悲鳴ですね。　松下